

令和5年度『産業動物衛生学研究室』入室用シラバス

当研究室では、動物を病気から衛る獣医師、獣医学博士を養成します。畜産現場の衛生対策あるいは家畜疾病のための検査を行い、必要があれば農場に調査に行きます。動物を愛し、協調性を持ち、微生物学を基盤とした家畜衛生獣医療に関心のある学生を歓迎します。動物を病気にさせない、それが衛生です。

◆ 受け入れ人数：2名

受け入れ前に要面談。入室志望動機、3年後期の動物衛生学講義の出席状況および受講態度を確認します。

◆ 本入室の受け入れ人数：2名

受け入れ前に要面談。当研究室教員担当の講義の成績、実習時の態度ならびに卒業論文研究(8単位)に対する積極性および熱意等を確認します。

◆ 欧文獣医学演習Ⅰ・Ⅱ(必修：各1単位)(評価基準：英語読解能力、プレゼン、ディスカス状況)

英語文献(動物の疾病制御関連)の読解力を養成します。週1回開催(通常火曜日)し、全室員が出席する。発表は順番制。発表予定者は、資料を発表予定1週間前にwebclassにアップし、当日はスライドを用いた発表形式でプレゼンする。年間発表回数は3回以上。

室員は事前に資料を熟読し、質問をwebclass掲示板に記す。発表者は、それらの質問に対して、適切に回答するよう努める。

◆ 産業動物衛生学専修実験Ⅰ・Ⅱ(必修：各1単位)(評価基準：研究態度、調査能力など)

初めは、上級生の研究を補助し、技術の習得に努めます。次に、短期的研究・調査課題に取り組んでもらいます。その他、農場訪問、牛等の解剖検査にも積極的に参加し、農家さんとのコミュニケーション、牛や豚のハンドリング、試料サンプリング技術等の向上に努めること。

◆ 卒業論文

卒業論文に関わる研究の進捗状況・研究計画について、ルーブリック評価の項目に従って確認し、評価します。5年生終了時には、卒業論文研究に関する面談を実施します。

最近の卒業研究等のテーマ

- ① 子牛・子豚の呼吸器病・下痢症の予防に関する研究
 - (ア) 子牛の *Mycoplasma bovis* 感染症に関する研究
 - (イ) 豚の浮腫病予防、治療に関する研究
 - (ウ) 農場の豚赤痢対策に関する研究
- ② 薬剤耐性菌に関する研究
 - (ア) 競走馬や野生馬の薬剤耐性菌に関する調査研究
 - (イ) 伴侶動物の薬剤耐性菌に関する調査研究
 - (ウ) 豚の薬剤耐性菌に関する調査研究
- ③ 環境衛生に関する研究
 - (ア) 畜舎排水の高度浄化処理に関する研究
 - (イ) 次亜塩素酸水の除菌効果に関する研究
 - (ウ) 深紫外線除菌効果に関する研究

◆ 室員の心得

- 教員、室員への挨拶を怠らない。教員からのメール・LINEなどには必ず返信すること。
- 研究室に来られない場合(体調不良等)は、教員に必ず連絡すること。無断不登校厳禁。必要と認められた場合は、自宅訪問や保護者への連絡を行います(※入室にあたり、自宅住所と緊急時連絡先を確認します)。

- 講義・実習、ゼミ、研究室専修実験、卒業論文研究、掃除当番などに支障のあるバイトは認めません。
- 研究室の休み（基本）：土日、祝祭日。春季（1週間）、夏季（2週間）、冬季（12/28～1/3）
- 「獣医棟3F感染症ユニット利用規定 (<https://www.miyazaki-u.ac.jp/cadic/usage/guidance.html>)」を厳守すること。
- 感染症関連5研究室合同ゼミに出席し、5-6年生は発表し、4年生は年間の規定回数質問する（義務）。
- 研究室またはCADIC主催の講習会の準備・運営等の手伝いを通して、社会人としての振る舞いを学ぶ。
- その他、当研究室のHP (<https://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/msuei/index.htm>)参考。
- 研究室行事（学生自主計画）
 - 花見、誕生日会、ビアガーデン、キャンプ、忘年会、歓送迎会など